

【論文】

小説の用例に見る動作の表現の日中比較 －『三体』と『七回死んだ男』における人物像－

宿利由希子^{1)*}, 王 睿来²⁾, 羅 希³⁾, 揣 迪之⁴⁾1) 東北大学高度教養教育・学生支援機構 言語・文化教育センター, 2) 韓山師範学院 外国語学院,
3) 広東技術師範大学 外国語学院, 4) 仲愷農業工程学院 外国語学院

小説を読むとき、私たちはことば遣いや動作の描写から登場人物の人物像を連想する。人物像と結びついたことば遣いである「役割語」は他言語と比較する研究が数多くなされている一方、動作の表現については比較研究が限られている。そこで本研究は、中国のSF小説『三体』三部作と日本のSF小説『七回死んだ男』の原文版・翻訳版を観察し、動作の表現と動作主である登場人物の人物像との関係について、笑い方、泣き方、動き回り方の動作の表現を考察対象に日中比較を行った。その結果、本研究で観察した表現に関して、中国語版ではさまざまな登場人物の動作を表すニュートラルな表現として用いられるものが、日本語版では登場人物ごとに使い分けられ、その使い分けには動作主の年齢や性別、性格、職業、印象の善悪などが影響している可能性が示された。さらにこの結果により、「誘導的側面」と「重複的側面」という人物像に関する日本語の特徴に光が当てられた。

1. はじめに

小説を読むとき、私たち読者は、登場人物のことば遣いからその「人となり（人物像）」を思い描く。たとえば、「わし～じゅ」の話者は老博士、「わたくし～ですわ」の話者はお嬢様というように、日本語母語話者はことば遣いから話者の人物像を連想する。このような特定の人物像と結びついたことば遣いは「役割語（金水 2003）」と呼ばれ、これまで他言語との比較研究から日本語と人物像の結びつきの強さが示されてきた（山口 2007; 鄭 2007）。

これらの研究は、小説でいうところの「セリフ」にかかる議論であるが、人物像はことば遣いだけでなく動作を描写するいわゆる「地の文」にも現れる。たとえば、ある人物が声もなく笑う様子を「ニコッと微笑む」と描写するか、「ニタリとほくそ笑む」と描写するかという選択が、その動作がどのような人物によるものかで異なるという議論である。日本語の小説やマンガでの笑い方の副詞を分析した羅（2011）は、「ニコッ」や「ニコリ」などの「ニコニコ」類は「善玉」の登場人物の笑い方の表現であり、「悪玉」の笑い方の表現としては用いられないと述べている。このような、動作主の

人物像と結びついた動作の表現である「キャラ表現（定延 2020）¹⁾」に関する事例の比較研究は、役割語研究に比べ少なく、擬態語に特化した日中韓比較研究（李 2017）や小説を用いた日露比較研究（宿利・カリュジノワ 2019; 2021）など一部に限られる。

そこで本研究は、擬態語だけでなくさまざまな日本語の動作の表現が、特定の動作主の人物像と結びついており、その使用可能範囲が中国語より狭いことを、小説における使用実態調査により示すことを目指す。そのため、ケーススタディーとして、中国のSF小説『三体』三部作と、日本のSF小説『七回死んだ男』の、中国語原文版および中国語翻訳版（以下、中国語版）と日本語翻訳版および日本語原文版（以下、日本語版）を観察し、動作の表現と動作主である登場人物の人物像との関係について日中比較を行う。『三体』三部作と『七回死んだ男』を扱うのは、両作品が日中両国で人気のある同ジャンルの作品であり、またどちらも現代の作品で原作、翻訳版ともに執筆された時代に大きな隔たりがないためである²⁾。

以下、第2節では先行研究を概観し、それらとの違いを踏まえた本研究の位置づけを述べる。第3節では

*) 連絡先：〒980-8576 仙台市青葉区川内41 東北大学高度教養教育・学生支援機構 yukiko.shukuri.a5@tohoku.ac.jp
投稿資格：1

調査概要について説明し、第4節で調査結果を示す。第5節で考察を行い、第6節ではまとめを述べる。

2. 先行研究

本節では、まず動作主の人物像と動作の表現の比較研究を概観し、動作の表現の翻訳における齟齬に関する指摘をいくつか紹介する。さらに先行研究と本研究の違いを示す。

2.1 動作主の人物像と動作の表現の比較研究

動作主の人物像と動作の表現の関係を探る比較研究は一部に限られるが、そこから明らかになったのは、日本語が動作主の性別や年齢だけでなく、性格や印象の善悪など、さまざまな人物像の側面においても動作の表現と強く結びついているということである。

笑う様子を表す擬態語と笑う行為者の性別、年齢に着目し、コーパスを用いて日中韓比較対照研究を行った李（2017）は、行為者の性別や年齢による擬態語の差は三言語で観察されたが、韓国語が最も擬態語の種類が多く³⁾、笑う行為者の性別、年齢によって使い分けかれていると主張している。具体的には、日本語の「にやり」や「にやにや」などは男性を対象とした使用が多いこと、中国語の“笑吟吟 xiàoyínyín 〈にこにこしている〉”，“笑盈盈 xiàoyíngyíng 〈にこやかである〉”は女性を対象とした用例が多いこと、韓国語の“싱긋 singgeut 〈にこっと〉”などの陰性母音の特徴を持つ擬態語は男性を対象に使われ、女性と子供にはほとんど使われないことが報告されている。また李は、日本語には「にやにや」のような不気味な薄ら笑いを表す擬態語が多いが、中国語と韓国語には同様の意味を表す擬態語はないと言っている。

日本語とロシア語の小説およびそれらの両言語翻訳版を比較した宿利・カリュジノワ（2019; 2021）は、笑い方の表現と泣き方の表現に関して、日本語がロシア語に比べ、表現と動作主の人物像とが強く結びついており、登場人物ごとにその人物像にふさわしい表現が使われる傾向にあると指摘している。たとえば笑い方の表現に関して、宿利・カリュジノワ（2019）は、「微笑む」に相当するロシア語がどのような主体にも使えるニュートラルな表現であるのに対し、対応する日本語の「微笑む」

や「にこりと笑う」は「善人」という特定の人物像と結びついた表現であることを報告している。登場人物の人物像は文脈や行動内容からある程度連想できるはずであるにもかかわらず、日本語ではその人物像にふさわしい動作の表現が用いられることについて、宿利・カリュジノワ（2021）は、日本語が他言語に比べ、動作主にふさわしい特定の表現を書き手に要求する力が強く、また読み手に表現から動作主を連想させたり反対に動作主から表現を連想させたりする力が強いことを示すものであり、このような力の強さは日本語の「誘導性」の高さと言い換えることができると主張する。

2.2 動作の表現の翻訳における齟齬

翻訳をする際、起点言語と目標言語に齟齬が生じることがあるが、それはときに「誤訳」と判断される。特に動作自体の意味が文化圏で異なる場合や、どちらかの言語にその表現が存在しない、あるいはその語や表現があると冗長な印象を与える場合などに、齟齬が生じそれらが誤訳と見なされることがある。

グロータース（1967=2000）は、文学作品をはじめさまざまな翻訳には誤訳が多く、特に「顔をしかめる」や「両肩をすくめる」のような人間が自分の体を使って表す慣習的な動作の表現には誤訳がつきまとつことを指摘している。たとえば、男性による「ステッキの握りで肩甲骨をこつこつ叩く」という動作は、日本語話者には「のんきなとうさん」らしい印象を与えるかもしれないが、西洋人にとっては考え込む様子と捉えられるという（ibid: 14-18）。これは、「こつこつと打つ」や「ぴしゃりぴしゃりと叩く」のように表現を類義のものに変えて解決しない、社会習慣としての動作自体の意味が文化圏ごとに異なるという指摘である。一方、困っているときや悲しいときに笑う「日本の微笑」は他国には通用しない（ibid: 14）。「考え込む様子」という動作の意味を日本語話者に正しく伝えるため、他言語話者に「日本の微笑」の意味を伝えるため、注釈が必要となるとグロータースは述べている。

また日中翻訳の誤訳に関する研究が主張するのは、日本語から中国語への翻訳では、日本語にある補助動詞や指示詞が中国語では非明示となり、日本語にはない動詞の「具体性」や副詞が中国語では付加される傾

向にある、ということである（藤田2007; 2020）。藤田は前者を「減訳」、後者を「加訳」と呼んでいる。減訳の例を(a)と(a)'に、加訳の例を(b)と(b)'に、中国語の後の()には筆者らによる日本語訳を示す。

- (a) わたしは電話で山田さんに知らせてあげました
 (a)' 我用电话通知了山田先生（わたしは山田さん
 に電話で知らせた）

[藤田 2007: 39より引用]

- (b) 高男はズボンのポケットから名刺を取り出すと
 (b)' 高男从褲兜里掏出一张名片（高男はズボンの
 ポケットの中を漁って名刺を取り出す）

[藤田 2007: 13より引用]

(a) の授受表現の補助動詞「あげる」に対応する表現は(a)'には現れない。減訳は、このように中国語に対応する表現がない場合⁴⁾だけでなく、「その操作が行われないと冗長さを聞き手である中国語母語話者に与える（藤田 2007: 20）」場合にも生じる。(b)の「取り出す」に対応する中国語は、“取出”や“掏出（ポケットなど目に見えないところを漁って取り出す）”などいくつか存在するが、(b)'では“掏出”が用いられることによって、どのように取り出すのか、動作が(b)より具体的に表されている（ibid: 13）。

2.3 先行研究と本研究の違い

動作主の人物像と動作の表現の比較研究を踏まえ、本研究では性別や年齢だけでなく、性格や印象の善悪など幅広く動作主の人物像を観察する。また、李(2017)は擬態語に関する研究だが、当然ながら擬態語以外にも笑い方の表現は存在する。本研究が扱う中国語には李が観察した“笑〇〇〈笑う+音象徵〉”の構造のものだけでなく、“傻笑 shǎxiào 〈ばか笑いをする〉”や“微微一笑 wēiwēi yíxiào 〈ちょっと笑う〉”などが、そして日本語にも「微笑する」や「薄ら笑いを浮かべる」などの表現がある。本研究では、擬態語だけでなく、上に挙げたような動詞や動詞句なども考察対象とする。

さらに、動作の表現の翻訳の研究から、動作自体の意味が文化圏ごとに異なる場合や、どちらかの言語に

その表現が存在しない、またはそれがあると冗長な印象を与える場合などに、原文と翻訳に齟齬が生じ、それらが誤訳と見なされ得ることがわかった。本研究ではこのような齟齬を「誤訳」と見なさず観察し、日本語や日本語社会の特徴を見出す材料として扱う。

3. 調査概要

本調査では、中国のSF小説『三体』三部作と日本のSF小説『七回死んだ男』の、中国語版および日本語版から、笑い方、泣き方、動き回り方という3種類の動作の表現を抜き出し、登場人物ごとにどのような表現が使用されているかを比較する。笑い方、泣き方、動き回り方に着目するのは、日本語においてこれらの表現が先行研究から特定の人物像と結びついていることが報告されているからである（宿利・カリュジノワ2019; 2021, 宿利 2022）。本節では、二作の小説の簡単な説明、動作の表現の考え方について順に述べる。

3.1 二作の小説

『三体』三部作は、地球からの信号を受けて地球に向かってくる三体文明とそれに立ち向かう人類の攻防を描く、スケールの大きな世界的ベストセラー作品である。中国で原作が出版された2008年から6年後、2014年に英訳版が出版され、ヒューゴー賞を受賞した。日本語訳版は、中国語原文を元に翻訳され、それをさらに「SFに翻訳する」という流れで世に出ている⁵⁾。『七回死んだ男』は、祖父が殺されるたびに主人公である少年「僕」が同日朝に逆戻りする話である。中国においての評判はよく、中国最大の読者レビューサイト「豆瓣 douban⁶⁾」での評価は10点満点中7.9~9.2点と高得点を記録している。日本語原文が直接中国語訳されている。それぞれの作品についての情報を表1に示す。

なお、日本語版の頁数は『三体』三部作が合計1916頁、『七回死んだ男』が351頁と大きな差があるが、『七回死んだ男』には多種多様な登場人物の笑い方、泣き方、動き回り方の表現が現れており、分析に問題は生じなかった。『三体II：黒暗森林』と『三体III：死神永生』の日本語翻訳版は上下巻に分かれているが、著者や翻訳者、出版年に違いはない。また、『七回死んだ男』の中国語訳版のみオンライン書籍のため、引用時に頁数を示さない。

表1. 調査に用いた小説原作と翻訳版の情報

作品名	原作著者名(原作出版年)	原作出版社	翻訳者(翻訳版出版年)	翻訳版出版社
三体	劉慈欣(2008a)	重慶出版社	立原透耶・大森望・光吉さくら・ワンチャイ(2019)	早川書房
黑暗森林 (三体II)	劉慈欣(2008b)	重慶出版社	大森望・立原透耶・上原かおり・泊巧(2020)	早川書房
死神永生 (三体III)	劉慈欣(2010)	重慶出版社	大森望・光吉さくら・ワンチャイ・泊巧(2021)	早川書房
七回死んだ男	西澤保彦(1995 ⁷⁾)	講談社	馬傑(2017)	新星出版社

※作品名は日本語版のものを記す。

3.2 動作の表現

動作の表現の数え方(件数と種類)について、「笑う」「泣く」「動き回る」という動作をしていることがわかる動詞および動詞句(「さまよう」「涙があふれる」など),名詞(「笑顔」「泣き声」など)を1種として数える。その際,中国語“笑xiào〈笑う〉”と日本語「笑う」の対応,中国語“哭kū〈泣く〉”と日本語「泣く」の対応は,人物像を読み取るのが難しい中立的に思える表現⁸⁾と判断し除外する。名詞の前に形容詞や形容動詞,名詞を伴う場合は1種の名詞として数える(「熱い涙」「彼女の涙」はどちらも「涙」)が,「涙を浮かべる」「涙があふれる」など,別の動詞が後続する場合は一連の句を1種の表現として数える。また,「幼児のように泣きじゃくる」「おもしろそうに笑う」といった直喻や修飾表現は種類の区別の基準に含めず後続の動詞,動詞句のみを数え,「ワーウー泣く」「声をあげて笑う」のように副詞や付帯状況を伴う場合はそれぞれ一連の句を1種の表現とする。ただし「指をさして笑う」「顔を覆って泣き出す」のように,独立した別の動作を表す副詞や付帯状況を伴う場合は後続の動詞,動詞句のみを数える。中国語の“狂笑kuángxiào〈もの苦しげに笑う〉”が「狂ったように笑う」と日本語訳された場合,前者の中国語は独立した1種と数え,後者は「笑う」と同種として扱う。日本語における「笑みを浮かべる」「笑みをうかべる」「歩き回る」「歩きまわる」などの表記のばらつきは,統一して1種と数える。

4. 調査結果

調査の結果,中国語版ではさまざまな登場人物の動作を表すニュートラルな表現として用いられるものが,日本語版においては登場人物ごとに使い分けられ,

またその使い分けには動作主の年齢や性別,性格,職業,印象の善悪などが影響している可能性が示された。以下,笑い方の表現,泣き方の表現,動き回り方の表現の順に述べる。中国語の表現は『中日辞典(小学館1992)』『日中辞典(小学館1987)』を用いて訳し,“傻笑shǎxiào〈ばか笑いをする〉”のように“表現 ピンイン〈辞書の意味〉”の順に記す。

4.1 笑い方の表現

笑い方の表現は,『三体』三部作で144件,『七回死んだ男』では24件観察された。前者について中国語版では133件,58種,日本語版では144件,54種,後者について中国語版では22件,20種,日本語版では24件,19種の表現が見られた。『三体』三部作と『七回死んだ男』で観察された主な笑い方の表現を,動作主である登場人物ごとに表2に示す。以下,表においては〈 〉に筆者らによる日本語訳を記し,ピンインは省略する。表2には動作主と共に〔 〕に性別や職業等小説内からわかる範囲の登場人物に関する情報を付し,表3以降は初出の場合にのみ付す。

表2を見ると,両言語とも擬態語(日本語では「にやにや」など,中国語では「笑○○」)がそれほど多くないことがわかる。多様な表現が観察されたが,本小節では主に“傻笑shǎxiào〈ばか笑いをする〉”,“微笑wēixiào〈ほほえむ,微笑する〉”,とこれらの日本語版の表現について述べる。

中国語原文版において用いられた“傻笑shǎxiào〈ばか笑いをする〉”は,動作主が頭の切れる中年男性の警察官,史強(大史)の場合「つくり笑いをする,つくり笑いを浮かべる」に,女の子の場合「くすぐす笑う」に日本語訳され,「ばか笑いをする」や類義表現の「大

表2. 『三体』三部作と『七回死んだ男』で観察された主要な笑い方の表現

動作主 [性別、職業等]	中国語版（件）	日本語版（件）	
三 体 三 部 作	史強（大史） [男性、警察官、頭が切れる]	傻笑〈ばか笑いをする〉(3), 笑〈笑う〉(2), 嘿嘿一笑〈へへと笑う〉(1), 坏笑〈にやにやする〉(1), 狞笑〈恐ろしげに笑う〉(1), 大笑〈大声で笑う〉(1), 露出傻笑〈ばか笑いを見せる〉(1), 带着坏笑〈にやにやと笑みを浮かべる〉(1), 带有一半调侃的表情〈冗談半分の表情で〉(1), 发出笑声〈声をあげて笑う〉(1), 带着笑意〈笑いを浮かべる〉(1)	つくり笑い(3), 笑い声をあげる(2), つくり笑いを浮かべる(1), つくり笑いが浮かぶ(1), にっこり笑う(1), にやっと笑う(1), にやにやと笑みを浮かべる(1), 笑み(1), 声をあげて笑う(1), 笑い出す(1), 笑う(1)
	雲天明 [男性、程心の同級生]	微笑〈微笑〉(1), 微笑出現〈微笑を浮かべる〉(1), 笑〈笑う〉(1), 笑了笑〈ちょっと笑う〉(1), 接着笑〈笑い続ける〉(1), 爆发出狂笑〈笑い声をあげる〉(1)	微笑む(2), 笑みが浮かぶ(1), 笑い(1), 笑う(1), 笑いすぎる(1)
	羅輯 [IIの主人公、男性、学者]	笑笑〈ちょっと笑う〉(2), 笑了笑〈ちょっと笑う〉(2), 笑了一下〈少し笑う〉(1), 苦笑〈苦笑(する)〉(1), 痴笑〈へらへらと笑う〉(1), 哈哈大笑〈声を出して笑う〉(1), 微笑〈微笑〉(1), 笑〈笑う〉(1)	笑みを浮かべる(2), 笑み(2), 大笑い(1), にっこりする(1), にっこり笑う(1), 苦笑まじり(1), くすくす笑い出す(1), 高笑いをはじめる(1)
	ウェイド [男性、程心の上司]	微笑〈微笑〉(2), 露出微笑〈微笑を見せる〉(2), 微笑溢散开来〈微笑がこぼれる〉(1), 微微冷笑〈ちょっと冷笑する〉(1), 出现了一抹笑意〈少し笑いを浮かべる〉(1)	にやっと笑う(1), 笑顔(1), 微笑みが広がる(1), 笑み(1), 笑みをあらわにする(1), 笑みが浮かぶ(1), 微笑が浮かぶ(1)
	レイ・ディアス [男性、元ベネズエラ大統領]	大笑〈大声で笑う〉(2), 狂笑爆发〈もの狂おしげな笑い声をあげる〉(1), 自嘲地笑笑〈自嘲氣味に笑う〉(1), 冷笑〈冷笑する〉(1)	大笑いする(1), くすくす笑い声をあげる(1), 自嘲氣味に笑う(1), 冷笑を向ける(1), 笑いが爆発する(1)
	丁儀 [男性、学者]	怪笑〈奇妙に笑う〉(2), 露出笑容〈笑みを見せる〉(2), 笑〈笑い〉(2), 狂笑〈もの狂おしげに笑う〉(1)	笑い声をあげる(3), 笑い声(2), 笑顔(1), 笑みを浮かべる(1)
	冰砂王子 [男性、王子、暴君のような性格]	狂笑〈もの狂おしげに笑う〉(1), 冷冷一笑〈冷たくちょっと笑う〉(1)	笑う(1), 微笑む(1)
	深水王子 [男性、王子、穏やかで優しい]	微笑〈微笑〉(2)	微笑む(2)
	章北海 [男性、中国海軍政治委員]	笑笑〈ちょっと笑う〉(1), 笑了笑〈ちょっと笑う〉(1)	微笑む(1), にっこりする(1)
	タイラー [男性、元米国防長官]	笑意蕩漾开来〈笑みがこぼれる〉(1), 狂笑〈ものの狂おしげに笑う〉(1)	笑みが浮かぶ(1), 哄笑(1)
	智子 [女性型ロボット]	微笑〈微笑〉(2), 浅浅一笑〈軽く微笑む〉(1), 一串大笑〈大きな笑い声が響く〉(1), 一笑〈ちょっと笑う〉(1)	微笑む(3), 笑い声が響く(1), 笑みを浮かべる(1)
	程心 [IIIの主人公、女性、学者]	微笑〈微笑〉(2), 微笑了一下〈少し微笑〉(1), 微微一笑〈ちょっと笑う〉(1), 报以微笑〈微笑を返す〉(1)	にっこりする(2), 笑みを向ける(2) [内1件対応する中国語表現なし], 笑みを返す(1), 微笑みを返す(1)
	莊頊 [女性、学生]	微笑〈微笑〉(4), 笑笑〈ちょっと笑う〉(1), 笑了笑〈ちょっと笑う〉(1)	笑みを閃かせる(2) [内1件対応する中国語表現なし], 笑みを浮かべる(1), 笑みが花開く(1), にっこりする(1), 微笑み(1), 微笑む(1)
	AA [女性、程心の部下、大学院生]	微笑〈微笑〉(1), 笑笑〈ちょっと笑う〉(1), 大笑〈大声で笑う〉(1), 嘻嘻笑〈にこにこ笑う〉(1), 莞尔一笑〈にっこり笑う〉(1)	笑みを浮かべる(1), 笑みを返す(1), 大笑いする(1), くすくす笑う(1), にっこりする(1)
	女の子	傻笑〈ばか笑いをする〉(1)	くすくす笑う(1)
	セイ [女性、国連事務総長]	微笑〈微笑〉(3), 对～露出微笑〈微笑を向ける〉(1)	微笑み(2), 笑み(1), 笑みを向ける(1)
	恵子 [女性、学者]	掠过笑容〈笑顔が通り過ぎる〉(1), 冷笑起来〈冷笑し出す〉(1), 微笑〈微笑〉(1)	笑みが浮かぶ(1), 笑みを浮かべる(1), 微笑む(1)

	動作主	中国語版(件)	日本語版(件)
三 体 三 部 作	看護師 [女性, 看護師]	笑笑〈ちょっと笑う〉(1), 大笑起来〈大声で笑い出す〉(1)	くすっと笑う(1), 大声で笑い出す(1)
	モナリザ [絵画(女性)]	微笑〈微笑〉(2)	笑みを浮かべる(1), 微笑み(1)
	玲子 [女性, 宇宙船航海士]	露出一个动人的微笑〈感動的な微笑を見せる〉(1)	にっこり笑う(1)
	不特定多数(人々, 会議出席者数人)	微笑〈微笑〉(1), 嘲笑〈嘲笑〉(1), 狂笑〈もの狂おしげに笑う〉(1), 响起几声笑〈笑い声がある〉(1), 响起笑声〈笑い声がある〉(1)	微笑む(1), 嘲笑(1), 忍び笑いを漏らす(1), 笑い声(1), 笑い声が響く(1)
七 回 死 ん だ 男	葉流名 [女性, 主人公の叔母]	挂着微笑〈微笑みながら〉(1), 微笑面庞〈微笑う顔〉(1), 露出轻率笑容〈軽率な笑いを浮かべる〉(1), 回送了微笑〈微笑を返す〉(1), 狂笑起来〈もの狂おしげに笑い出す〉(1), 脸上挂着一笑微笑〈微笑を顔に浮かべる〉(1)	薄笑いを浮かべる(2), 笑顔を返す(1), 笑顔を浮かべる(1), 微笑をぶら下げる(1), 笑い方(1)
	胡留乃 [女性, 主人公の叔母]	“扑哧扑哧”地笑了起来〈吹き出すように笑い出す〉(1), “咯咯”地笑了起来〈くすぐす笑い出す〉(1)	くすぐす笑い出す(1), ころころと笑う(1)
	友理繪美 [女性, 祖父の秘書]	笑容〈笑顔〉(1), “咯咯咯”地笑了起来〈くすぐす笑い出す〉(1)	笑顔(1), くすぐすと笑う(1), 含み笑いを洩らす(1) [対応する中国語表現なし]
	母 [女性, 主人公の母]	高声笑〈甲高い声で笑う〉(1), 嘲笑〈嘲笑する〉(1)	甲高い笑い声(1), 嘲笑する(1)
	ルナ [女性, 主人公の従妹]	微笑〈微笑〉, 嘲笑道〈嘲笑する〉(1)	微笑(1), あざ笑う(1)
	舞 [女性, 主人公の従妹]	嗤之以鼻〈鼻であしらう〉(1)	せせら笑う(1)
	祖父 [男性, 主人公の祖父]	发出笑声〈笑い声をあげる〉(2), 笑了起来〈笑い出す〉(1)	笑い声をあげる(2), 笑う(1)
	僕(久太郎) [主人公, 男性, 高校生]	大笑〈大声で笑う〉(2), 窃笑〈ひそかに笑う〉(1)	笑う(2), ほくそ笑む(1)
	世史夫 [男性, 主人公の兄]	露出微笑〈微笑を見せる〉(1)	薄ら笑いを浮かべる(1)

笑いをする」と日本語訳された例はなかった。言うまでもなく「ばか笑いをする」と「つくり笑いをする」「くすぐす笑う」は異なる動作であり、また中国語にはそれぞれの動作の表現(“假笑 jiǎxiào 〈作り笑いをする〉”, “窃笑 qièxiào 〈ひそかに笑う, くすぐす笑う〉”)が存在する。そのため、翻訳者がこの警察官や女の子にこの場面で「ばか笑いをする」と表現するのがふさわしくないと判断し、あえて異なる意味の表現を用いたと推察される。警察官の例の中国語版を(1)に、その日本語版を(2)に示す。以下、該当表現に下線を付し、中国語版には筆者らによる直訳を()に記す。

(1) “别误会，我要是直直地开过去不就完了，讲个礼貌打个招呼你还当成驴肝肺了。”大史露出他的特色傻笑，一副无赖相〔後略〕(「誤解しないでくれ。まっすぐ運転すればよかった。丁寧に挨拶したのに悪くとられるなんて」と言って、大史は彼の特徴的

なばか笑いを見せ卑劣な表情を浮かべた。)

[劉 2008: 12]

(2) 「よしてくれ。まっすぐそのまま通りすぎりやあよかったですな。礼を欠いちゃいけないと思って、わざわざ車をとめて声をかけたんだぜ。それをそんなふうに悪くとるなんて」史強は独特のつくり笑いを浮かべ、ごろつきの顔になった。

[立原他訳 2019: 71]

(1) は、頭の切れる中年男性の警察官、史強(大史)が、自分の冗談に笑いながら、尾行していた学者に向かって声をかける場面である。相手とはそれほど親しい関係でなく、この場面で「ばか笑いを見せ」るのはいささか唐突な印象を受けるが、それは「彼の特徴的な」笑いであり、史強(大史)という人物の人となりを読者が知る貴重なヒントであることは確かである。一方(2)

では「つくり笑いを浮かべ」と日本語訳されており、動作自体が“傻笑 shǎxiào〈ばか笑いをする〉”とは異なるものになっている。史強（大史）の“傻笑 shǎxiào〈ばか笑いをする〉”は“露出lùchū〈を見せる〉”を伴うものを含め4件観察されたが、いずれも冗談を言つたりふざけた態度を取つたりしたときの笑いであり、すべて「つくり笑い（を浮かべる）」のように日本語訳された。日本語版の史強（大史）が「ばか笑い」に近い「声をあげて笑う（“大笑 dàxiào〈大笑いする〉”に対応）」姿や「笑い声をあげる（“发出笑声fāchū xiào shēng〈声をあげて笑う〉”に対応）」姿を見せるのは、相手の発言をおもしろがって笑う場面のみである。

続いて、女の子の例の中国語版を（3）に、その日本語版を（4）に示す。（3）は、公共交通機関で移動する際に向かいに座った若い男女が楽しそうにしている様子を描写した一場面である。女の子は、男の子が耳元で話すことに時々「ばか笑い」をしているのだが、（4）では「くすくす笑」っており、動作自体が異なるものになっている。この女の子が登場するのはこの場面のみである。

（3）前排坐着一对情侣，男孩伏在女孩的耳边不停地说着什么，女孩不时地傻笑一阵，并用一个小片儿从纸杯中刮出粉红色的东西吃〔後略〕（前の列にカップルが座っていて、男の子が女の子の耳元でなにか話している。女の子は時々ばか笑いをし、紙コップからピンク色のものをこすり取って食べていた。）

[劉 2010: 352]

（4）前の座席には若いカップルが座っていて、男の子が女の子の耳もとでずっとなにか話している。女の子はときおりくすくす笑い、小さな板のようなもので紙コップに入ったピンク色のものを削って食べていた。

[大森他訳（上）2021: 176]

中国語版の“微笑 wéixiào〈ほほえむ、微笑する〉”は、日本語版ではおおむね「微笑む」に対応するが、『三体』において性格の悪い中年男性ウェイドが動作主の笑い方の表現として使われた際、「横柄な」のような否定的な修飾表現を伴わないにもかかわらず「にやっと笑

う」と日本語訳された。中国語版を（5）に、その日本語版を（6）に示す。

（5）维德微笑着点头头，“可以让莫妮尔去，我母亲的猫，不过它也得减肥一半才行。”（ウェイドは微笑んでうなずいた。「モニアを行かせるといい。母の猫だよ。それにしてもモニアの体重を半分まで減らす必要があるが」）

[劉 2010: 56]

（6）ウェイドはにやっと笑ってうなずいた。「モニアに搭乗を頼んでもいいな、うちの母親が飼っている仔猫だよ。もっとも、モニアにしても、体重を半分まで減らす必要があるが」

[大森他訳（上）2021: 106]

（5）は、ウェイドが小さな飛行船の船員を誰にするか話し合っている際に、ブラックジョークを披露する場面である。ウェイドによる“微笑 wéixiào〈ほほえむ、微笑する〉”や“微笑溢散开来 wéixiào yì sàn kāi lái〈笑顔がこぼれる〉”は場面によっては「笑顔」や「微笑みが広がる」に対応しており、いずれも冷たい一言と共に現れている。「微笑む」と「にやっと笑う」はどちらも声を出さずに笑う様を表すが、印象に善悪の違いがあり、また中国語にも“坏笑 huàixiào〈にやにや笑う〉”という表現が存在する。そのため、「微笑む」という笑い方の表現が、このような場面では性格の悪い登場人物の笑い方としてふさわしくないと翻訳者が使用を避けたと考えられる。

さらに、『七回死んだ男』日本語版において、八方美人でいい加減な若い男性登場人物、世史夫の「薄ら笑いを浮かべる」という日本語が、“微笑 wéixiào〈ほほえむ、微笑する〉”に中国語訳されている例が観察された。日本語版を（7）に、その中国語版を（8）に示す。

（7）「それは何か。おい」面白がるべきか畏れおののくべきか決めかねているみたいに世史夫兄さんは曖昧な薄ら笑いを浮かべた。

[西澤 1995: 218]

（8）“喂！你这话是什么意思？”世史夫哥哥的脸上露出一种暧昧的微笑，让人看不明白，不知道他是兴

致勃勃，还是有所畏惧。（「おい！それはどういう意味だ？」世史夫兄さんは興奮しているのか，恐れているのかわからない曖昧な微笑を見せた。）

[馬訳 2017]

「薄ら笑い」とは「かすかに表情を動かしただけの笑い。多く、人を小ばかにしたときや困惑したときの笑い方」を示す表現で、「薄笑い」と同義とされる。「薄ら笑いを浮かべる」も「微笑を見せる」も、かすかに表情を動かしただけの声を出さない笑い方であるが、前者は後者より抱く印象が悪い。また、「薄ら笑い」に近い中国語の表現は、軽蔑したり見下したりする感じの笑いを表す“冷笑 lěngxiào〈冷笑する〉”であるが、これはどちらかというと声を出して笑う様子である。中国語を母語とする第二、三、四著者の内省では，“冷笑 lěngxiào 〈冷笑する〉”には明らかな軽蔑のニュアンスが含まれるため「曖昧な」と共起するのは不自然である。(7)では日本語版の著者が八方美人でいい加減な若い男性登場人物の笑い方として選択し使用した印象の悪い表現が、(8)の中国語版ではニュートラルな印象の表現に変わっている。

以上のことから、中国語“傻笑 shǎxiào〈ばか笑いをする〉”，“微笑 wéixiào〈ほほえむ、微笑する〉”がさまざまな動作主の表現として使える一方、日本語「ばか笑いする」「ほほえむ、微笑する」は使用可能範囲が限定的であることがうかがえる。

4.2 泣き方の表現

泣き方の表現は、両言語版とも『三体』三部作で24件、『七回死んだ男』で11件観察された。前者の中国語版では19種、日本語版で19種、後者は中国語版9種、日本語版8種の表現が見られた。表3に二作で観察された泣き方の表現を示す。本小節では、“大哭 dàkū〈大泣きする〉”とその日本語版の表現について述べる。

“大哭 dàkū 〈大泣きする〉”は日本語版では「泣き叫ぶ」「泣きわめく」「泣きじゃくる」に対応している。特に「赤ん坊みたいに」「幼児のように」という修飾表現を伴う場合、中国語版で“大哭 dàkū 〈大泣きする〉”が使われる一方、日本語版では修飾表現の使用だけでなく動詞も「泣きじゃくる」が用いられ、「泣

き叫ぶ」「泣きわめく」は使用されなかった。「泣き叫ぶ」の例の中国語版を(9)に、日本語版を(10)に示す。

(9) 所有的人都在欢呼中热泪盈眶，许多人因激动而嚎啕大哭，在历史上从来没有这样一个时刻〔後略〕(すべての人々が歓声を上げて目に涙を浮かべ、多くの人が興奮して声をあげて大泣きした。歴史上こんな瞬間は今までなかった) [劉 2008b: 261]

(10) 地球の人々は涙を流し、歓呼の声をあげた。感動のあまり大声で泣き叫ぶ人も多かった。人類の歴史上、こんな瞬間ははじめてだった。

[大森他訳（下）2020: 183]

(9) は危機を回避したことを喜ぶ人々が歓喜の涙を流す場面である。(9)の日本語訳と(10)を見比べると、「大泣きした」人のほうが「泣き叫ぶ」人より幼い印象を受けるが、中国語の“大哭 dàkū 〈大泣きする〉”にそのような印象はない。

次に、「泣きじゃくる」の例の日本語版を(11)に、中国語版を(12)に示す。(11)の動作主は中年男性の「父」であり、息子である語り手は四六時中泣く父を情けなく思っている。「幼児のように泣き叫ぶ」「幼児のように泣きわめく」でも「幼児のように泣く」様は伝わるが、「幼児のように泣きじゃくる」のほうがさらに子供っぽく情けない印象が強まる⁹⁾。

(11) それからの父の変貌ぶりは無残のひと言に尽きる。〔中略〕そして息子たちの前で幼児のように身も世もなく泣きじゃくるのである。

[西澤 1995: 58]

(12) 从那以后，爸爸的样子可以说到了惨不忍睹的地步。〔中略〕不仅如此，他还当着儿子们的面，像个小孩子似的，不管不顾地号啕大哭。（それ以来、父の姿は見るも無残だったと言える。〔中略〕そして息子たちの前でまるで子供のように大泣きしていた。） [馬訳 2017]

表3.『三体』三部作と『七回死んだ男』で観察された泣き方の表現

	動作主	中国語版〈辞書の日本語訳〉(件)	日本語版(件)
三体 三部作	程心	痛哭〈激しく泣く〉(1), 流下了泪水〈涙を流す〉(1)	泣く(1), 涙を流す(1)
	露姬 [女性, 姫]	掩面痛哭〈起来〉〈顔を手で覆って声をあげて泣く〉(1)	泣き出す(1)
	羅輯の理想の女性 の子供時代	哇哇大哭〈ワーワーと大泣きする〉(1)	ワーワーと大泣きする(1)
	AA	眼含热泪〈熱い涙をためる〉(1), 哽咽地哭〈弱々しく泣く〉(1)	熱い涙をためる(1), 鳴咽する(1)
	女性	哭叫〈泣き叫ぶ〉(1)	泣きわめく(1)
	汪淼 [男性, 学者]	哭〈泣く〉(1)	めそめそする(1)
	ウイドナル [男性, 学者]	热泪盈眶〈感情が高ぶり熱い涙が目にあふれる〉(1)	涙を浮かべる(1)
	ハリス [男性, 管制室職員]	鸣咽声〈むせび泣く声〉(1)	すすり泣き(1)
	史曉明 [男性, 史強の息子]	擦去泪水〈涙を拭う〉(1)	涙を拭う(1)
	破壁人二号 [男性]	哭着〈泣いている〉(1), 哽咽〈むせび泣く〉(1)	声をあげて泣く(1), むせび泣く(1)
	羅輯	泪水盈满双眼〈涙が両目にあふれる〉(1), 抬手擦了一下(1)	涙があふれる(1), 涙を拭う(1)
	地区行政長官	哭了起来〈泣き出す〉(1)	泣き出す(1)
	宇宙船の乗員	哭〈泣く〉(1)	泣きわめく(1)
	人々	嚎啕大哭〈声を張り上げて泣き叫ぶ〉(1), 忍住抽泣〈すすり泣きを我慢する〉(1), 哭泣〈泣く〉(1)	大声で泣き叫ぶ(1), 鳴咽をこらえる(1), 泣き声(1)
	人類文明	大哭〈泣き入る〉(1)	泣きわめく(1)
七回 死んだ男	移民	哭号〈号泣〉(1)	すすり泣く(1)
	亡靈	哭号〈号泣〉(1)	むせび泣き(1)
	物体(換気扇)	鸣咽声〈むせび泣く声〉(1)	むせび泣く(1)
	ルナ	哭〈泣く〉(1), 哭天抢地〈泣きわめく〉(1), 大哭大闹〈大声で泣きじゃくる〉(1), 放声大哭起来〈大声で泣き出す〉(1)	泣きじゃくる(2), 泣きわめく(1), ベソベソ泣き始める(1)
	母	眼角泛出了点点泪光〈目頭に涙がちらちらと光る〉(1)	口惜し涙が浮かぶ(1)
七回 死んだ男	母と葉流名	嗷嗷乱叫〈ひいひい悲鳴をあげる〉(1)	おんおん泣きわめく(1)
	父 [男性, 主人公の父]	哭〈泣く〉(1), 哭天抢地〈泣きわめく〉(1), 号啕大哭〈号泣する〉(1), 哇哇地哭个没完〈ワーワーと泣き止まない〉(1)	泣き出す(1), 泣きわめく(1), 泣きじゃくる(1), おんおん泣きまくる(1)
	樋谷 [男性, 祖父の秘書]	哭鼻子〈めそめそと泣く〉(1)	泣きつく(1)

4.3 動き回り方の表現

動き回り方の表現は、『三体』三部作で26件、『七回死んだ男』では3件観察された。前者について中国語版で25件、19種、日本語版26件、16種、後者について中国語版2件、2種、日本語版3件、3種の表現が見られた。表4に観察された動き回り方の表現を示す。動作主の「物体」には視線や宇宙船などが含まれる。

中国語版では“流浪 liúlàng 〈さまよう〉”や“转悠 zhuànyou 〈歩き回る〉”など、また日本語版では「さまらう」「さまよう」「ぶらぶらする」「うろつく」な

どの表現が観察された。本小節ではそのうち、“流浪 liúlàng 〈さまよう〉”, “转悠 zhuànyou 〈歩き回る〉”とこれらの日本語版の表現について述べる。

印象の悪い観光客やホームレス、不審者が動作主の場合、日本語版では「うろつく」という悪印象を伴う表現が使われたが、中国語版ではそのような表現は用いられず、どのような人物の動作としても使える表現のみ観察された。“流浪 liúlàng”が「ぶらぶらする」と日本語訳された例の中国語版を(13)に、その日本語版を(14)に示す。

表4.『三体』三部作と『七回死んだ男』で観察された動き回り方の表現

	動作主	中国語版〈辞書の日本語訳〉(件)	日本語版(件)
三体三部作	汪淼 [男性, 学者]	乱转〈特に目的もなく回る〉(1)	あちこち走り回る(1)
	白沫霖 [男性, 兵団機関紙記者]	转〈(周囲を) 回る〉(1)	ぶらぶらする(1)
	魏成の先生 [男性, 学者]	来回走〈行ったり来たりする〉(1)	うろうろと歩く(1)
	沙瑞山 [男性, 学者]	来回踱步〈ゆっくり歩いて同じところを行ったり来たりする〉(1)	うろうろと歩き回る(1)
	水砂王子	来回踱步〈ゆっくり歩いて同じところを行ったり来たりする〉(1)	歩き回る(1)
	副艦長	浮游〈浮遊する〉(1)	うろうろ泳ぐ(1)
	羅輯	踱步〈ゆっくり歩く〉(1)	うろうろ歩く(1)
	雲天明の一部	流浪〈さまよう〉(1)	さまよう(1)
	吳岳 [男性, 中国海軍空母艦長]	徘徊〈行ったり来たりする〉(1)	ぶらぶらする(1)
	移民	流浪〈さまよう〉(1)	ぶらぶらする(1)
	希望を失った者たち	徘徊〈行ったり来たりする〉(1)	さまよう(1)
	ハイinz夫妻	漫步〈そぞろ歩きをする〉(1)	ぶらぶら歩き回る(1)
	ホームレス	※ホームレスは「流浪汉」	うろつく(1) [対応する中国語表現なし]
	人類, 人々	流浪〈さまよう〉(2), 流落〈放浪する〉(1), 进入〈入る〉(1), 颠沛流离〈困窮して流浪の身となる〉(1)	さすらう(3), 放浪する(1), 放浪(1)
	観光客 (たち)	闲逛〈ひまつぶしにぶらぶらする〉(1), 东跑西窜〈右往左往する〉(1)	うろつく(1), ぶらぶら歩き回る(1)
七回死んだ男	物体 (視線, 心, 宇宙船, 光斑)	流浪〈さまよう〉(1), 游移〈ゆっくり移動する〉(1), 游走〈見物して歩く〉(1), 放松了… …繩索〈…の手綱を緩める〉(1), 上下波动〈上下に搖れ動く〉(1), 滚动〈転がる〉(1)	さまよう(4), うろちょろする(1), 動き回る(1)
	悪いおじさん [男性]	转悠〈歩き回る〉(1)	うろつく(1)
	僕 (久太郎)	徘徊〈行ったり来たりする〉(1)	うろうろする(1) [対応する中国語表現なし], 徘徊する(1)

(13) [前略] 移民大量拥入悉尼, 虽然不让定居, 但就是在街头流浪也比住在移民村里强, 至少让人感觉仍然身处文明世界, 这使得城市人满为患. (シドニーには多くの移民が集まったが, 定住は許されていない. とはいえた移民の村に住むよりも街をさまようほうが良く, 少なくとも文明世界にいるような気分にさせてくれるため, 街は混雑していた.)

[劉 2009: 162]

(14) 住む家はなくても, ホームレスとして街をぶらぶらするだけで, 移民区に住むよりはまだ, 文明世界に身を置いている気分になれた. シドニーはたちまち人口過密になり, [後略]

[大森他訳 (上) 2021: 285]

(13) は三体文明の侵略により住む家を失い, オーストラリアに避難した移民たちがシドニーを歩く様子を描く場面である. 「さまよう」と「ぶらぶらする」はどちらも「あてもなく歩きまわる」様子を表すが, 日本語母語話者の第一筆者による内省では, 前者に比べ後者の印象は悪く, また前者にまとわりつく悲壮感のようなものは後者にはない. “流浪 liúlàng 〈さまよう〉”は動作主が人類や人々の場合は「さすらう」や「放浪」と日本語訳されており, これらと (13) (14) の違いは, 動作主が文明世界の瀬戸際に身をおくホームレスか否かという点である.

続いて, 「うろつく」が“转悠 zhuànyou 〈歩き回る〉”と中国語訳された例の日本語版を (15) に, その中国語版を (16) に示す.

(15) 「怪獣なんかこの世にはいません。オダ君、駄目よ。〔中略〕可愛い男の子や女の子を見つけるといケナイことをする悪いわるういオジさんがうろついているからです。とっても危ないからです。

[西澤 1995: 20]

(16) 这个世界上没有怪兽什么的东西。小田君, [中略]你可不能总看那些奇怪的动画片啊。那是一个人, 是一个人哦。他是一个只要看见可爱的小男孩小女孩就会对它们做不好的事情的超级超级坏叔叔。他整天就在那里转悠, 所以那里十分危险, 十分恐怖。(この世界には怪獣なんかいません。オダ君, [中略]彼は、かわいい男の子と女の子を見つけると、その子達に悪いことをする超超悪いおじさんです。彼は一日中そこら辺を歩き回っているから、とても危険で怖いです。) [馬訳 2017]

「うろつく」と「さまよう」はどちらも「あてもなく歩きまわる」様子を表す。「あてもなく歩きまわる」様子を表す「うろつく」は「さまよう」に比べて動作主の印象が悪く、「不良」や「不審者」を連想させることが先行研究で指摘されている(宿利 2022)。一方, “转悠 zhuànyou 〈歩き回る〉”は、無目的に歩き回るという動作自体がどちらかといえば否定的な印象を伴うものであるが、「うろつく」のように「不審者」などの印象の悪い動作主を連想させることはない。

5. 考察

第4節の調査の結果、中国語版ではさまざまな登場人物の動作を描写する表現として用いられるものが、日本語版において登場人物ごとに使い分けられ、またその使い分けの要因が動作主の年齢や性別、職業、性格、印象の善悪である可能性が示された。この結果から、本研究で観察した日本語の笑い方、泣き方、動き回り方の動作の表現が、中国語に比べ特定の動作主の人物像と強く結びついており、表現の使用可能範囲が狭いことが示されたと言える。

本調査の中比較の結果は、「誘導的側面」と「重複的側面」という人物像に関する日本語の特徴に光を当てる。本節では、それについて以下順に論じる。

5.1 誘導的側面

人物像に関する日本語の「誘導的側面」というのは、役割語を例にすると、老博士のセリフとして「わしへじや」ということば遣いを当てたり、「わたくしへすわ」ということば遣いを見聞きしてお嬢様を連想したりする現象である。これは、前者では話し手や書き手などの発信者が、後者では読み手や聞き手などの受信者が、老博士なら「わしへじや」、お嬢様なら「わたくしへすわ」と発信したり、認識したりするよう誘導された結果と考えることができる。

本研究で観察された「誘導的側面」について、たとえば中国語版の“傻笑 shǎxiào 〈ばか笑いをする〉”という表現は、動作主が頭の切れる中年男性の警察官の場合「つくり笑い（を浮かべる）」、女の子の場合「くすぐす笑う」という、原文とはまったく異なる動作の表現に日本語訳された。「ばか」という侮蔑的な表現を避けようとしたためとも考えられるが、その場合「大笑い」や「大声で笑う」などの類似する動作の表現を使用することも可能である。にもかかわらず、日本語版では異なる動作を表す「つくり笑い（を浮かべる）」などの表現が用いられた。

これらはグロータースの指摘した、社会習慣としての動作自体の意味が文化圏ごとに異なる現象なのであろうか。それとも偶発的な誤訳なのか。両疑問に対する筆者らの見解は「否」である。まず前者の疑問について、中国語社会でも頭の切れる中年男性の警察官や女の子による“傻笑 shǎxiào 〈ばか笑いをする〉”は、日本語社会同様やや品のない、どちらかというと否定的な印象を与える動作である¹⁰⁾。また後者の疑問について、数件観察された頭の切れる中年男性の警察官による“傻笑 shǎxiào 〈ばか笑いをする〉”はいずれも「つくり笑い（を浮かべる）」に統一して日本語訳されており、翻訳者たちの人物描写に関する意図を感じる。

ではなぜこのような現象が起るのか。数ある類義表現の中から特定の動作の表現を選び使うことができるかどうかは、文法や文脈の要請だけでなく、動作主の人物像にもよる。“傻笑 shǎxiào 〈ばか笑いをする〉”の動作主が女の子なら「ばか笑いをする」ではなく「くすぐす笑う」，“流浪 liúlàng 〈さまよう〉”や“转悠 zhuànyou 〈歩き回る〉”の動作主が印象の悪い人物な

ら「さまよう」「歩き回る」ではなく「ぶらぶらする」「うろつく」というように、動作主の人物像にふさわしくない動作の表現の使用が日本語社会では避けられる。同時に、発信者が動作主の人物像にふさわしい表現を当てるよう、受信者が認識するよう誘導する力が、中国語社会と比較して日本語社会ではより強く働くと考えることができよう。言い換えれば、日本語社会は中国語社会に比べ表現の使用可能範囲が狭いのである。

ここで、「頭の切れる中年男性の警察官」に「ばか笑い」はふさわしくないと判断したり、「不審者」といえば「うろつく」という動作の表現を連想したりする際の誘導の力には、日本語社会においてもばらつきがあるのではないかという、新たな疑問が予想される。確かに、本研究で観察された現象は、語と語の結びつきであるコロケーションや、被修飾語として「～ない」という打ち消しの表現を要求する「決して」のような誘導副詞のような文法的な規則とは異なる。役割語研究においては、「ある話体（文体）が、特徴的な性質の話し手を想定させる度合い」を「役割語度（金水 2003: 67）」と呼び¹¹⁾、話者とことば遣いの結びつきを感覚的な尺度によって判断している。本研究における動作の表現に関しても、このアイディアを援用することができる。すなわち、動作主の人物像と動作の表現の結びつきの強さにはばらつきがあり、どの程度日本語社会で共通して認知されているかは表現により異なると考えることができる。

5.2 重複的側面

人物像に関する日本語の「重複的側面」とは、同じく役割語を例にすると、外見や動作自体から老博士やお嬢様だとわかる登場人物に、その必要はないのにあえて老博士らしいことば遣い、お嬢様らしいことば遣いを当てる現象を指す。これは、場合によって「老博士らしさ」「お嬢様らしさ」を強化することもあるが、見方によっては重複的であり冗長であるとも言えよう。

たとえば「しゃくりあげるようにして泣く」様子を表す「泣きじゃくる」という表現は、動作主として子供または子供っぽい人物を連想させる。もし「幼児のように」という修飾表現があれば、それだけで「幼児のように」泣いたことが十分伝わるため、「泣きじゃ

くる」という子供っぽい泣き方の表現を用いる必要はないはずである。中国語版では、“小孩子似的 xiǎo háizi shì de 〈子供のように〉”があれば動詞が「泣き叫ぶ」とも日本語訳される“大哭 dàkū 〈大泣きする〉”であっても子供のように泣く様子が十分伝わる。ところが日本語版ではさらに「泣きじゃくる」という子供っぽさと結びついた動詞を使用したほうが自然な場合や、「泣き叫ぶ」「泣きわめく」などの類義表現では不自然に感じられる場合もある。この事例から、動作の表現に関して日本語では自然とされる重複的言語使用が、中国語では避けられる場合があると考えられる。

重複に関する程（2020）の日中比較研究では、日本語と中国語に共通して観察される名詞修飾型の重複の例が紹介されている。たとえば「白い雪（“白雪”）」は、「雪」といえば「白い」ものであり、白くない雪はないため重複と考えられるが、これは日本語でも中国語でも自然である（程 2020: 93）。さらに程は、一般的には、制限的関係節より非制限的関係節において重複が生じやすいと述べている。たとえば「塩辛いスープ」は、多種多様なスープの中から特に「塩辛い」ものを限定しているため制限的関係節である。これに対し「塩辛い海水」は、塩辛くない海水が存在しないため非制限的関係節であり且つ重複である。

この議論について、本研究で観察された「幼児のように泣きじゃくる（“像个小孩子似的号啕大哭 〈子供のように大泣きする〉”）」を例に考察する。「泣きじゃくる」は子供っぽい泣き方の表現であり、子供っぽさを感じさせずに「泣きじゃくる」様を思い浮かべるのは困難であると予想される。名詞修飾型の例ではないが非制限的である。そのため、「幼児のように」があるのに動作の表現として「泣きじゃくる」を用いたり、「泣きじゃくる」があるのに「幼児のように」を付け加えるのは重複と考えられるが、日本語社会では自然である。中国語には、このような子供っぽさと結びついた泣き方の表現がないため，“大哭 dàkū 〈大泣きする〉”というさまざまな動作主の動作として使われる表現が用いられており重複が生じない。

同様の現象が「悪いわるういおじさんがうろつく（“超级超级坏叔叔转悠 〈超超悪いおじさんが歩きまわる〉”）においても観察される。「うろつく」は「不良」

や「不審者」などの「悪者」を連想させる動き回り方の表現であり、品行方正、清廉潔白な人物の動き回り方として用いるのは不自然であるという点において非制限的と言える。動作主が「悪いわるういおじさん」であることはすでに示されているため、動作の表現が類義表現の「歩き回る」であっても十分「悪者」であることは伝わる。「うろつく」を用いるのは重複と考えられるが日本語社会ではその使用が自然である。一方、中国語にはこのような「悪者」を連想させる動き回り方の表現がないため、“转悠 zhuānyou〈歩き回る〉”というさまざまな動作主による動作の表現が用いられ、重複は生じなかった。

中国語には存在しない表現が日本語には存在することについて、中国語社会では重視されない人物像と結びついた動作の表現の使い分けが、日本語社会では重視されるためと考えられる。そして、動作主の人物像にふさわしい動作の表現を用いることは、重複的であるが日本語社会では自然なのである。

6.まとめ

本研究はケーススタディーとして、日中のSF小説で用いられた動作の表現と動作主である登場人物の人物像の関係について比較調査を行った。その結果、本研究で観察した表現に関して、日本語の笑い方、泣き方、動き回り方の動作の表現が、中国語に比べ特定の動作主の人物像と強く結びついており、表現の使用可能範囲が狭いことが示されたと言える。さらに本調査の日中比較の結果は、「誘導的側面」と「重複的側面」という人物像に関する日本語の特徴に光を当てる。

「誘導的側面」と「重複的側面」という特徴は、前述のとおり役割語にも見られる現象である。役割語はマンガや子供向けのSFドラマなどの「幼稚」な作品によく使われるという（金水 2003: 11）が、本研究で見てきた動作の表現の例は、日常的に用いられるごく一般的な表現であり、フィクション作品に特化したものではない。そのため、役割語以上にノンフィクションの世界で観察できる一般的な現象であることが認識しやすい。日本語社会では、我々が日常的に使用する動作の表現が、実は動作主の人物像と結びついており、それらが「誘導的」かつ「重複的」であるというのが

本研究の主張である。

本研究は日中両言語の小説二作のみを用いて質的研究を行ったが、量的にはどのような傾向があるのか、今後さらなる調査が必要となる。

謝辞

本研究はJSPS 科研費JP20K13056、中国教育部人文社会科学研究基金20YJC740038、広東技術師範大学人材専項2021SDKYB090の助成を受けたものです。

注

- 1) これは定延（2011）で「キャラクタ動作の表現」と呼ばれたものである。定延（2020）では、善惡の尺度はことば遣いにおいて動作主の人物像に関連性が見られないが、キャラ表現においては関連することを指摘している。
- 2) 『三体』三部作はAmazon Japanの中国文学ランキングで上位を独占しており、その下には近代文学『阿Q正伝』などが続く（「amazon ランキング 売れ筋ランキング 中国文学」[<https://www.amazon.co.jp/gp/bestsellers/books/506986>] (2022/09/29最終確認))。
- 3) 韓国語の笑い方の表現の種類が多いのは、笑う表情の特に「口」を対象とする表現、「目」を対象とする表現、「口」と「目」の変化の表現という三つの大きな種類がある（李 2012）ためと考えられる。
- 4) 中国語にも“給〈あげる〉”や“为〈ために〉”があり、“给（为）小李做饭〈李さん（のため）に料理してあげる〉”“给他帮忙〈彼を手伝ってあげる〉”のような用例がある。しかしながら、どちらも完全に「あげる」と一致するものではなく、「知らせてあげる」に対応する“?給山田通知”，“?为山田通知”のような使い方は不自然である。
- 5) 『三体』翻訳者の一人である英日翻訳家の大森氏は、「訳者あとがき」の中で「本書は中国語版『三体』の全訳」であり、「早川書店が翻訳権を取得した時点で、本書は、光吉さくら氏とワン・チャイ氏の共訳による日本語版が存在していた。諸般の事情から契約終結前に作成されていたこの翻訳原稿をもとにして、現代SFらしくリライトするというフィニッシュ・ワークが大森に与えられた使命。いわば、中国語か

ら日本語に訳されたテキストをSFに翻訳する仕事だと言ってもいい」と述べている。日本語版には中国語版から削除され、英語版をもとに書かれた部分も存在するが、この日本語版自体は英語版を介した翻訳によるものではない。なお、中国語版で削除された部分の日本語の動作の表現は、本研究の分析に用いていない。

- 6) 「豆瓣 douban」[<https://www.douban.com>] (2022/09/29最終確認) を参照した。
- 7) 本研究では文庫版『新装版七回死んだ男』(講談社文庫, 1998)を使用する。
- 8) 定延(2020)は、それなりの落ち着いた雰囲気を備えた大人の振る舞いである「たたずむ」に比較し、直立姿勢の持続行動である「じっと立つ」は中立性が高く対象を選ばないとしている。前者は対象を選ぶが、後者は中立的に思える表現であると言える。
- 9) 有島武郎の『或る女』における泣き方のケーススタディを行った宿利・カリュジノワ(2019)においても、「泣きじゃくりをする」の動作主は年端のいかない少女であったことが報告されている。
- 10) 中国語母語話者の第二、三、四著者の内省では、“傻笑 shǎxiào 〈ばか笑いをする〉”に関して、目上の人々が動作主に対して「なに“傻笑”しているんだ」のように注意する場合、動作主は厳しく咎められており、“傻笑”は否定的な印象を帯びる。一方、動作主との関係性や文脈によっては、“傻笑”と表現することにより動作主の無防備な一面が感じられ、裏表のない、質朴、誠実といった愛らしい印象を与える場合もある。
- 11) 金水(2016)は、日本語共同体の中で広く共有された社会的・文化的グループのことば遣いである役割語と、一部のメンバーにしか共有されていないツンデレ・キャラクターのことば遣いなどを「役割語未満」として明確に分けている。これに対し、本研究は「「役割語」と「ふつうことば」があるのではな」く(定延2020),「すべてのことばは役割語である(定延2011: 84)」という指摘にならない、動作主の人物像と動作の表現の結びつきに関してもこの指摘を援用する。

参考文献

- 程莉(2020)『「重複」の文法的研究』ひつじ書房。
- 藤田昌志(2007)『日中対象表現論一付：中国語を母語とする日本語学習者の誤用について』白帝社。
- 藤田昌志(2020)『副詞加訳(日→中)論—事例研究を中心として—』日中対照言語学会(編)『日本語と中国語の副詞』白帝社, pp. 212-231.
- グロータース, W. A. (1967=2000著) 柴田武(訳)『誤訳—ほんやく文化論』五月書房(『誤訳—ほんやく文化論』1967)三省堂新書の復刊)。
- 鄭惠先(2007)「日韓対照役割語研究」金水敏(編)『役割語研究の地平』くろしお出版, pp. 71-93.
- 金水敏(2003)『ヴァーチャル日本語 役割語の謎』岩波書店。
- 金水敏(2016)『役割語とキャラクター言語』金水敏(編)『役割語・キャラクター言語研究国際ワークショップ2015報告論集』pp. 5-13.
- 李大年(2012)『日本語と韓国語における擬態語の対照研究—日本及び韓国の少女マンガにおける感情を表す擬態語を中心に—』花書院。
- 李大年(2017)『日中韓三言語における笑う様子を表す擬態語の比較対照研究—笑う行為者の性別、年齢による違いを中心に—』『韓国言語文化研究』25, pp. 47-67.
- 羅米良(2011)「博士論文 現代日本語副詞の記述枠組みに関する研究」神戸大学大学院国際文化学研究科。
- 定延利之(2011)『日本語社会のぞきキャラクリ』三省堂。
- 定延利之(2020)『コミュニケーションと言語におけるキャラクター』三省堂。
- 宿利由希子(2022)「犯罪報道に見ことばの誘導性—ストーカー規制法違反の事例から—」『東北大学高度教育・学生支援機構紀要』8, pp. 209-220.
- 宿利由希子・カリュジノワ, M (2019)「日露比較から見る日本語の笑い方の表現の特徴」『日本語の研究』15 (3), pp. 18-25.
- 宿利由希子・カリュジノワ, M (2021)「小説における泣き方の表現の日露比較—有島武郎『或る女』の用例から—」『東北大学言語・文化教育センターニューズ』6, pp. 47-54.
- 山口治彦(2007)「対照役割語研究への誘い：役割語の個別性と普遍性」金水敏(編)『役割語研究の地平』くろしお出版, pp. 9-25.